

世界遺産アカデミー認定講師 File No.37

このコーナーでは、世界遺産アカデミーの啓発活動にご支援いただいている世界遺産アカデミー認定講師の方に毎回スポットを当てて、お話を伺います。第37回目は、ご夫婦で世界一周旅行を遂げ、ブログやFacebookなどで世界遺産の情報を発信し続けている、賛助会員の鈴木かの子さんです。鈴木さんは、TV番組「99人の壁」や江東区レインボータウンFM、トラベル情報誌「GENIC」で記事掲載など、メディアでも多方面にご活躍されています。今回は、そんな鈴木さんに、世界遺産旅行のエピソードやSNSを中心とした普及活動について、語っていただきました。

——人生一度しかない 世界一周旅行だから、 世界遺産をテーマに

海外出張の多かった両親に連れられて、子どもの頃から海外が身近にあり、大学時代は沢木耕太郎氏の小説『深夜特急』に影響されて、バックパッカーとして、タイ、インド、中国などを周遊しました。世界遺産を学ぶきっかけは、主人との世界一周旅行です。私も主人も会社を退職して臨んだ世界旅行の内容は、扶桑社さんからムック本『世界遺産イエーイ!! バックパッカー夫婦が見たこれがホントの世界遺産513』として刊行されました。2008年に東京を出発し、西周りでアジア、オセアニア、中東、ヨーロッパ、アフリカ、南米、中米と移動しました。1度だけ友人の結婚式で帰国しましたが、2012年まで常に海外でした。基本的には電車とバスを乗り継ぎ、大陸間移動だけ飛行機です。最初は2年間で世界一周を想定していました

が、なんだかんだで4年間。物価の高いヨーロッパではドミトリ一泊で、他のバックパッカーたちとも交流できました。物価がそれほど高くないアジアでは、ホテルのダブルやツインルームに宿泊しました。旅行中は世界遺産検定1級の公式テキスト『すべてがわかる世界遺産大事典<上>・<下>』を持参していましたので、各地の世界遺産では必ずテキストと照らし合わせていました。初受検は帰国後で、2級から始めて、1級、マイスターと順調に認定。実際に世界遺産を訪問しながら学習していたので、頭に入りやすかったのだと思います。

印象に残っている国は、イラン・イスラム共和国です。イスラム教には「旅人をもてなす心を持ちなさい」という教えがあるようで、温かくて優しくばかりでした。美しいモザイク装飾のモスクに圧倒されたイスファハンのイマーム広場では、色々な人たちが話しかけてくれました。イラン人の男性が額装されたゾロアスター教の絵をくれたり、宝石や刺繍装飾が豪華なマント（ヒジャブ）を着ている女性に「美しいマントですね」と声を

かけたら、「差し上げます」と微笑されたり。心の美しい人々が生きていて、その人々の街だから美しい姿を保ち続けているのだと感じられました。

世界遺産は宗教、建築、自然とジャンルが多様で、視野が広がりました。自然遺産への関心はあまりなかったのですが、その場所にしか生息しない稀少な動物と出逢っているうちに、心に大きく響いてきました。特に動物は知らないと思ってしまう。たとえば、「ガラパゴス諸島」では、カツオドリ（一種で足の青い「アオアシカツオドリ (Sula nebouxii excisa)」を見かけます。現地では「ブービー (Booby)」と呼ばれていて、



扶桑社刊行のムック本 (Kindle版での入手が可能)



近づいても逃げないガラパゴス、アシカとイエーイ!

両足は鮮やかな青色。求愛の時にパーッと羽を広げる姿がとても可愛らしいのですが、愛称「ブービー」はおっちょこちょいの意味だそう。「ブービー」という名前を知らなかったら、ガイドさんに「ブービー、いるよ」と言われても、何のことだか分かりませんし、せっかくのチャンスを逃してしまうかもしれません。

お勧めしたい世界遺産は、その原点でもある

「アブ・シンベル神殿」です。何も知らないで行くと、巨大な4体のラムセス2世像の大きさに圧倒されるだけかもしれません。世界遺産検定を勉強していれば、四角形のブロックに切り分けて移築した知識があるので、像や神殿に残されている分割線の跡に気づけます。また、近くの人工造のナセル湖を見ると、移築の場面も頭に浮かんできて、感動が増すことでしょう。首都カイロのピラミッドに行かれる方は多いかと思うので、カイロからナイル川を南下して、足を伸ばしていただきたいです。また、イスラム世界をお好きな方にお勧めしたいのは、トルコ。「エルトゥールル号遭難事件」に始まる交流もあって、女性ひとりでも旅しやすい親日国です。イランと同様、街の人々は温かみがあって、日本語で「お茶飲んでいってよ」と、甘いチャイを誘ってくれます。中心街はバスや地下鉄、路面電車などの交通も整っていて、トルコ料理も美味しいです。イスタンブールには、「アヤ・ソフィア」、「スレイマニエ・モスク」、「トプカプ宮殿」、メデューサを土台とした柱が特徴的な



世界遺産条約誕生のきっかけとなったアブ・シンベル神殿

「地下宮殿」など見所が満載。2週間ほど滞在しましたが、まったく飽きません。東「東西交流地」と称されるだけあって、西周りの旅人も東周りの旅人も、この地を中継点としていることを実感しました。先日、海外旅行を考えている学生さんに、タイの『アユタヤ歴史地区』をお勧めしまし

た。バンコクへの直行便は多く、バンコクからアユタヤまで車で約2時間と近い。気候は熱帯ですが、治安も良い。なんとといっても仏教遺跡が素晴らしく、樹木に飲み込まれた仏頭の「ワット・マハータート」のような日本では見られない廃墟的な寺院遺跡が在ります。異国情緒のある古都ですね。

——世界遺産を 仕事にできることは、 幸せなこと

認定講師としては、現在、検定ガイダンスを担当させていただいています。最初は緊張し手探りでしたが、教える経験を積み重ねるうちに、学生たちが興味を持つ話題や話す内容の時間配分、コツが分かってくる、余裕も出てきました。飽きさせない、寝させないためには、体験談の方が良いようで（苦笑）、腕時計をみながら、実体験エピソードを織り交ぜての授業です。先日、

英語の重要性について講義する機会がありました。世界一周旅行当時はそれほど英会話ができませんでしたので、英語ができたら、もっと視野が広がったと思います。言葉を知っていると、現地情報を知ることができますし、異文化交流が深まります。困った時に自分の身を守ることもできます。

個人活動として、家族で「世界遺産イエーイ!!」というブログを運営していて、小学1年生の娘は最年少マイスターを目指して頑張っています。娘も親に連れ回されて、55件の世界遺産を訪問済み(2020年1月現在)。「世界遺産ファミリー」として猛特訓しています。また、世界遺産の理念を広めて、豊かな社会を築いていこうをモットーに、WHA正会員の土坂日登美さん、認定講師の片岡英夫さんをはじめ、多彩な世界遺産検定マイスターたちとともに、セミナーやFacebookで世界遺産に関する情報を発信する活動も行っています。これからもWHA認定講師として、また、世界遺産ファミリーとして、ブログ「世界遺産イエーイ!!」の充実、SNSでの情



イスラム教とキリスト教が同居しているアヤ・ソフィア

報発信と、世界遺産活動の幅を広げていきたいと思っています。そして、学生さんたちが世界遺産への興味を強めて実際に訪れようと決心する背中を押せるような、認定講師を目指しています。現実の厳しさもあって、「行ってみたい」と「行こう」は、だいぶ異なります。この壁を取り払うには努力と勇気を必要とします。自分の体験談や現地の空気感が、いつか学生たちの旅立つきっかけに繋がればと願っています。